

本土から新入生がやって来た！ 「青雲の志」受け止める久米島高

加して入学を決めたという。

園芸科で学ぶ中村椋真君（川崎市出身）は、こう意気込んでいる。

「まったく知らない環境でやってみたくったんです。農業を通して、食の安全に関わりたいと思います」

普通科の荒井竜馬君（東京都世田谷区出身）の動機は「風変わっている。T.Vドラマ「ゴード・ブルードクターへリ緊急救命」などを見て僻地医療に関心を持ったという。

「この高校から医学部を目指したい。島に進学塾はありますが、先生が親身になってくれるのでヤル気が出ます」

都会育ちの2人、離島の生活に不安はないのか。「コンビニが近くなるだけでも全然困りません。里親の農作業を手伝うのも楽しいですよ」

の87人が入学。島外入学者5人のうち2人は本土（県外）からの「島留学」である。昨秋、東京で開いた学校説明会に参



「島留学」の5人＝前列（右から2人目が荒井君、同3人目が中村君）

沖繩本島の西約100キロにある久米島町にこの春、街から新入生がやって来た。ここ10年、定員割れが続き、学校存亡の危機にあった県立久米島高校が、島外から生徒を募ったのは本誌13年11月24日号当欄でお伝えした通り。努力の甲斐あって島外から5人が新たに入学したのだ。

同校にはこの春、定員（120人）には届かなかったもの87人が入学。島外入学者5人のうち2人は本土（県外）からの「島留学」である。昨秋、東京で開いた学校説明会に参

の皆さんが応援してくれてい

ると思いました」（荒井君）

「大学卒業後は島に戻ってほしいのが本音ですが、戻らな

くても島の応援団になってほ

しい」（平瀬通男校長）

東京、大阪に加え、今年から名古屋でも学校説明会を開

く。青雲の志を島ぐるみで受

け止める。

度から2校に統合されるな